



際ライダーの天田昭治さんは茨城県土浦市にある「ハーレーダビッドソン・レインボー」の店長。ハーレーのスポーツスターやビューエルでのイベントレース参戦でも有名だ。家業のバイクショップで働くかたわら、24歳の年に趣味で参加した全日本選手権のノービスクラスレースで、いきなり年間ランキング2位を獲得。翌年国際B級を飛び越して国際A級に昇進した経歴もち、最近ではハーレーやビューエルのサーキットイベントスタッフとしても活躍している。顔を知っている人も多いだろう。レース活動は「あくまで趣味」と語る天田さんだが、個人的にXBR Rを購入。ビューエルでのサーキット遊びに、ますます拍車がかかっている。そんな天田さんに、ビューエルの魅力を語っていただいた。

川越—ビューエルの楽しさ(コーナリング)を最も享受できるのはサーキット、とよく言われますが僕もオーナーとして同感です。ワインディングも楽しいですが、サーキットはさらに気持ちよく、安心して走れますし。今回は、サーキットでのビューエルの楽しみ方を中心にお聞きしたいと思います。

天田—全日本選手権を終えて、サーキットに戻ってきたのはスポーツスターでのレースが楽しかったからですが、ビューエルも同じようにエンジンが魅力的ですね。ビューエルのサーキット仕様の作り方などもオーナーの方によく聞かれますが、楽しむためにはサーキットも一般道も、基本は「安心感」を得ることだと思います。マシンを作っていくときは、まずはタイヤのマッチングから始めて欲しいですね。

川越—タイヤに投資しろと(笑)。どのメーカーの、どの銘柄がオススメなんですか？

天田—僕の好みと他の人の好みは違いますから、既存の情報にとらわれず、いろいろな銘柄を試していただきたいですね。まずはそこにお金をかけて欲しい。サーキットを走るなら6000CCのブ口ダクション用を選ぶと、ラウンドが尖っているのでよりクイックなハンドリングが得られますが、人によってはヒラヒラすぎて安定感がないと感じてしまう。川越—ビューエルはキャストが立って、ホイールベースも短いので、タイヤ形状の影響が出やすいですよね。

**Buell Column**  
ビューエル・コラム 36

文—川越 憲  
Ken Kawagoe

ーツやセッティングを変えると効果がわかりやすい。タイヤの次にブレーキのフィーリングに注目していただきたいのですが、大径シングルディスクなのでパッドの違いがダブルディスクタイプよりもはつきり出ます。レースに出るためにダブルディスクにする方もいますが、エンジンパワーを上げないならSTDのまま

デザインを極めればもつと好きになる



レースはあくまで趣味の延長と語る天田さん。ツーリングやワインディングでは、意外にノンビリ派とか。お店のイベント情報はHPに詳しく掲載されている。「ハーレーダビッドソン・レインボー」(☎029-822-6666) <http://www.rainbow-mc.jp/>

でも、ストップピングパワーは十分でしょうね。ダブルディスクに変更した車両でレースに出たこともありましたが、STDのほうがハンドリングが軽快で好印象でした。サーキット走行会を楽しんだりワンメイクレースに出るなら、まずはいろいろなパッドを試すことから始めるといいでしょう。でもマシン作りのテー

世界に50台しか存在しないビューエーサーXBR Rを購入。写真はシェイクダウン走行時のもの。稀少車なのでオリジナルの保存も求められるが「外装カウルをもう1セット手に入れて、自分好みの形状とグラフィックでマシンを作り上げたい」と天田さん。



はというと、私はまず「デザイン」ですね。川越—先進的なリアアウトやデザインもビューエルの大きな魅力です。天田—STDの良さを崩さないように、カウルやグラフィックを仕上げていくと、マシンに愛着が湧きますし、もつとこのマシンを極めようと思うようになります。00年に「もてぎ7耐」に参戦したマシン(X-1)もそうでしたね。図面を描いてカウルやペイントに時間を使って。乗ることよりカスタムが好きなのもかもしれません(笑)。でもビューエルは手がかければかけただけ個性が際立って好きになります。川越—サーキットという遊び場では、レーシングスーツや各種プロテクターなど「格好」から入るのが安全で楽しい、と聞きますがマシン作りも同じようなことが言えそうですね。天田—私はハーレーのエンジンが好きでレースを再開しましたが、タイムを削るだけでなく安全に楽しく遊びたいと思っています。スポーツスターでのレースはフロントフォークを何十回とバラしたりワンオフパーツもたくさん作りましたが、それだけ手をかけたスポーツスターとSTDのビューエルのタイムは変わりませんでした。ビューエルの素性の良さを証明していますね。ただ、00年のX-1レーサーは時間が足りなくて納得いくまで煮詰められませんでした。その代わりといっってはなんですが、XBR Rを購入して、現在コックピットとマシンを仕上げていくところです。川越—スゴイ！世界に50台しかないレーサーですが、どのようなマシンに仕上げるのですか？天田—今までのマシンとコンセプトは変わっていません。「安全で楽しめる」マシンです。自分好みに外装を加工したりペイントも行いたいと思うのですが、オリジナルの保存も求められるマシンなのが難しいところですね。STDカウルをもう1セット手にしたいところです。既にシートカウルは制作しました。あと、XBR Rはパワーがあるのでフロントをダブルディスク化しています。まだ、慣らし運転でサーキットを3回くらいしか走らせていません。仕事の合間にコックピットと長い目で組み上げていく予定です。レースの参戦予定も決めていませんし、カスタムを含めて自分のペースで遊んでみたいですね。まずは、先ほど言ったとおり、タイヤのチョイスからです。川越—まさにビューエルにはまってしまった感がありますね。XBR Rでのレース参戦は今後のライフワークになりそうですね。初レース、絶対観に行きますよ。